がん専門病院における褥瘡（床ずれ）発生患者の実態調査

1．研究の対象

国立がん研究センター中央病院において 2011 年 4 月～2014 年 12 月の間の入院患者さんのうち、院内で褥瘡が発生した方々を対象といたします。

2．研究目的・方法

研究の概要：

当院の褥瘡発生患者さんは、全員ががん患者さんで発生臓器や病期はさまざまで、急性期から終末期まで様々な病期の患者さんが混在しています。一般の医療者の間ではがん終末期患者さんの褥瘡発生は防ぎきれないといわれていますが、現状当院の終末期患者さん全員に褥瘡が発生するわけではありません。当院の褥瘡発生患者さんは寝たきりばかりではなく歩けているにもかかわらず褥瘡が発生することがあります。これまでの研究では、終末期がん患者さんの褥瘡悪化要因として自力座位や歩行ができること、せん妄状態により褥瘡予防ができなくなったことなどにより、安楽な姿勢を保てないことが影響していることも報告されています。終末期に緩和困難な症状があると患者さんは安楽を求めて同じ姿勢となり褥瘡発生するため、緩和困難な身体症状の有無が褥瘡発生に大きく影響します。また、はじめのうちは症状緩和できずに褥瘡が発生したとしても、その後症状緩和できてくると全身状態が改善しなくても褥瘡は治癒することがあります。したがって、身体症状と褥瘡状態には密接なつながりがあると考えられるため身体症状と褥瘡状態の関連性などを調査します。

目的：

本研究の目的は、がん患者さんで褥瘡発生した方の背景、褥瘡状態、褥瘡発生に影響する要因等を調査し、褥瘡発生したがん患者さんの身体症状と褥瘡状態の関連性などの実態を明らかにして、今後の褥瘡予防対策における看護の示唆を得ることです。

方法：

研究方法は、当院の 2011 年 4 月～2014 年 12 月の間における入院患者のうち、院内で褥瘡発生した患者さんを対象に診療録から調査を行います。

研究実施期間：

2015 年 07 月 23 日 ～ 2017 年 10 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究では調査項目に基づいた診療録情報を用います。調査項目は、患者さんの背景、褥瘡状態、褥瘡発生に影響する要因等です。患者背景については、診療録から年齢、性別、疾患、転移の有無、転帰、褥瘡危険因子、褥瘡ハイリスク項目、ブレーデンスケールに必要な情報を収集します。褥瘡状態については、発生部位、DESIGN-R 各点数を調査する。褥瘡発生に影響する要因については、主たる身体症状である疼痛、呼吸困難感、倦怠感、食欲不振、麻痺、浮腫、便失禁、意識障害、腎機能低下、肝機能低下の有無を調査します。また、栄養状態評価のための血液生化学データ（Alb、Hb）、体位変換制限の有無、症状緩和への治療（緩和的放射線治療）や薬剤投薬（麻薬、抗癌剤、ステロイド系薬剤）、褥瘡局所管理方法なども情報収集します。

4. 試料・情報の公表

公表：研究成果は日本褥瘡学会で一般演題や論文等として発表いたします。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先および研究責任者：

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 看護部 安達淑子

TEL03-3547-5201（内線 7280）